



経営者としての人柄の奥に、隠れていたもの

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（36）】抑え込んできた過去の表出が、認知症の人の重荷を降ろす

公開日：2018/03/26 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベ
タニアホーム統括施設長）

施設の皆さんと花見に行った帰りの車中
で、隣あわせに座ったのが利用者、脇田カナ
さん（仮名81歳）でした。いきなり「商売繁
盛のこつ知っとる？」と聞かれ答えに窮しま
した。



cc0 by Liane Metzler

「どうすれば繁盛するのですか」と尋ねると「飴一つでもいいからお客を喜ばせ
ること」と答えられたその横顔は経営者でした。

脇本さんは長年人を使ってお店を営んでいました。まじめな人柄なので繁盛して
いたそうです。高齢になり一人暮らしが不安になったので、施設に入居されまし
た。

施設の生活にすぐ順応されましたが、骨折をして入院をした後から物忘れがひど
くなり、とうとう認知症と診断されました。

ある時、脇田さんの生活を支えるために話し合うケアプラン会議に出席しまし
た。そこで脇田さんが「おっばいちょうだい」と、介護スタッフに再々おっしゃっ
ていることを知りました。笑いながら言われるので、介護スタッフは「おっばいは
ないですよ」などと答えてそれほど困ってはいませんでした。

しかし、それは私の知っている脇田さんのイメージとはあまりにかけ離れていた
のです。

めずらしく雪がふったある日、赤いマフラーを首に巻いた脇田さんに、お部屋の前でお会いしました。名前を名乗って挨拶をすると、私のことは忘れていらっしゃいました。

「外は雪ですが、子どもの時、雪だるまを作って遊びましたか」とお聞きすると「ないない。私は一人子だったから」と窓を見て話されました。

「さぞかしご両親にかわいがられたのでしょうかね」と返すと、「お父ちゃん、お母ちゃんは何も言わなかったんよ。私はよそからもらわれてきた子だから」と答えられました。

脇本さんは生まれてすぐに養女に出されたそうです。周りの人の噂で実子でないことをうすうす気づいていたのですが、大人になって戸籍謄本を見て知りました。

子どもの頃から養父母に怒られた記憶がないそうです。養父母の勧めにより工場で働く女性が多かった時代に、役所で働いていたと得意そうに語られました。

けれども、役所で働くようになったら自分のことばかりにお金を使い、養父母に生活費を渡すことはしなかったそうです。

脇本さんは「お母ちゃんはうちを産んだわけでもないのに育ててくれた。うちならそんなことはできん。それなのに親孝行せんかったんよ」と私の目を見ずに言われました。

お花見で出会った時の脇本さんは、有能な経営者として自立して生きてきた女性でしたが、私の前にいるのは別人でした。

その後何度も脇本さんを訪ねて話をしましたが、なぜか脇本さんの過去からお店を経営していた時代は消え去っていました。

人は誰でも心にバリケードを張って生きていますが、認知症になるとそのバリケードが外れます。そうすると抑え込んでいた過去の課題が露わになってきます。そこで、それを解決して安らかな死を迎えたいという欲求にかられるのではないかと思うのです。

脇本さんは「自分は誰から生まれてきたの」と本当は養父母に聞きたかったのです。気兼ねせず叱って欲しかったのです。自分も思い切り甘えたかったのです。そして「育ててくれてありがとう」と感謝の言葉を伝えたかったのではないのでしょうか。

その課題を解決するために「おっばいちょうだい」と言って今は亡きお母さんを探している脇田さんに、「お母さんが恋しいのですか」とか「お母さんどんな人でしたか」と聞いて、感情の表出を促すような関わりが大切です。

なぜなら、こらえていた思いを吐き出すことができれば、孤独な苦闘から解放されるからです。そんな援助を私たちができれば脇田さんは「おっばいちょうだい」と言う必要がなくなると思うのですが。

(注) 事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

<この連載は原則として水曜日に掲載しています>

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [江戸焦土作戦を立案、西郷との交渉に臨む](#)
- > [米中貿易戦争、中国も変らなければ](#)
- > [製造業派遣2万人、ジョブグレード制度で戦力化](#)
- > [将来何で食べていくか、子供は真剣に考えている](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント (MBA) 卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

News Socraは、記者30年、新聞協会賞受賞の元日経新聞の土屋直也が編集長をしています。ネットで本当のジャーナリズムを盛り上げたいと思い、ベテランライターによる独自記事とセレクト記事を掲載しています。

[トップへ](#)

アプリでもご覧になれます



[いいね! 0](#)

[シェア 0](#)

[ツイート](#)



[この記事編集](#)

[ソクラとは](#)

[FAQ](#)

[編集長プロフィール](#)

[利用規約](#)

[利用案内](#)

[プライバシーポリシー](#)

[著作権について](#)

[特定商取引法に基づく表示](#)

[メーカーソクラ](#)

[お問い合わせ](#)

[お知らせ一覧](#)

[コラムニストプロフィール](#)

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved